

『追いつめる親』

(おおたとしまさ、毎日新聞出版 2015.7.)

本書のサブタイトルは、「あなたのため」は呪いの言葉。著者は、教育熱心過ぎる親が子供を追いつめ、追いつめられた子が親を殺す事件を憂慮しています。

- ◆「教育虐待」とは、「あなたのため」という大義名分のもとに親が子に行う行き過ぎた「しつけ」や「教育」のこと
- ◆「共依存」とは、依存的な親から依存され、自らも依存されている立場に依存すること。そうして育った子供は俗に「アダルト・チルドレン」と呼ばれる。周りからは「いい子」と言われるが、心の中にはいつも得体の知れない「生きづらさ」を抱える。
- ◆教育熱心過ぎて子供を追いつめてしまう親がよくやってしまうパターン代表格は「どうしてできないの？」である。わからないことが理解できない親の未熟さの表れだ。
- ◆「教育」は子供ありきの営み、「人材育成」は目的ありきの営み。出発点が真逆である。しかし昨今の教育議論では、これら二つが混同されていることが多い。学問とは「自ら問うて学ぶ」こと。勉強とは「自ら強いて勉める」こと。